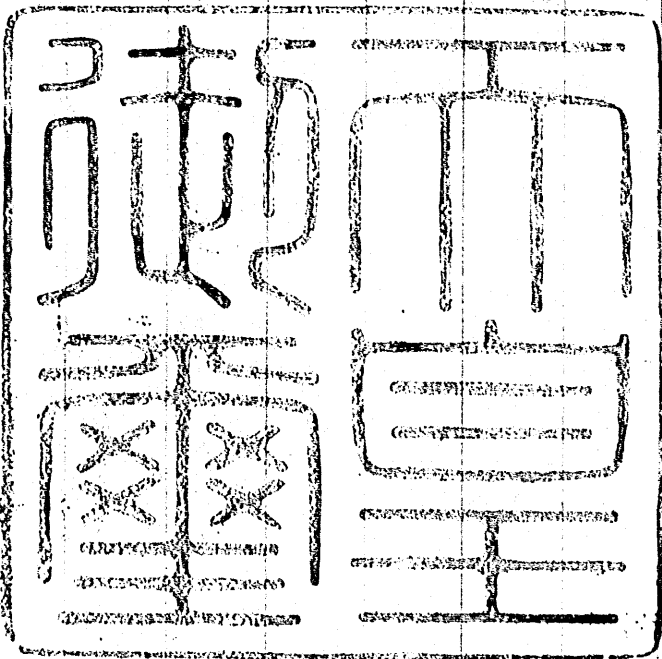


條約第三號

朕樞密顧問ヲ諮詢シ經テ大正四年五月二十五日支那國北京ニ於テ日支兩國全權委員ノ署名調印シタル南滿洲及東部内蒙古ニ関スル條約ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム

七五九四九



大正四年六月八日

内閣總理大臣伯爵大隈重信
外務大臣男爵加藤高明

條約第三號

南滿洲及東部内蒙古ニ関スル條約

日本國皇帝陛下及支那共和國大統領閣下ハ南滿洲及東部内蒙古ニ於ケル兩國間ノ經濟關係ヲ發展セシムコトヲ欲シ右ノ目的ヲ以テ條約ヲ締結スルコトニ決シ之カ為ニ日本國皇帝陛下ハ特命全權公使從四位勳二等日置益ヲ支那共和國大統領閣下ハ中卿一等嘉禾勳章外

交總長陸徵祥ヲ各其ノ全權委員ニ任命
セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ全權委
任状ヲ示シ之カ良好妥當ナルヲ認メ以テ左
ノ條項ヲ協議決定セリ

第一條 兩締約國ハ旅順大連ノ租借期
限並南滿洲鐵道及安奉鐵道ニ關スル
期限ヲ何レモ九十九箇年ニ延長スハ
キコトヲ約ス

第二條 日本國臣民ハ南滿洲ニ於テ各
種商工業上ノ建物ヲ建設スルヲ為又ハ

農業ヲ經營スルヲ為必要ナル土地ヲ商
租スルコトヲ得

第三條 日本國臣民ハ南滿洲ニ於テ自
由ニ居住往來シ各種ノ商工業其ノ他
ノ業務ニ從事スルコトヲ得

第四條 日本國臣民カ東部内蒙古ニ於
テ支那國國民ト合辦ニ依リ農業及附
隨工業ノ經營ヲ為サントスルトキハ
支那國政府之ヲ承認スハシ

第五條 前三條ノ場合ニ於テ日本國臣

民ハ例規ニ依リ下附セラレタル旅券
ヲ地方官ニ提出シ登録ヲ受ケ又支那
國警察法令及課税ニ服スヘシ
民刑訴訟ハ日本國臣民被告タル場合
ニハ日本國領事官ニ於テ又支那國
民被告タル場合ニハ支那國官吏ニ於
テ之ヲ審判シ互ニ負テ依リ臨時傍聽
セシムルコトヲ得但シ土地ニ関スル
日本國臣民及支那國國民間ノ民事訴
訟ハ支那國ノ法律及地方慣習ニ依リ

兩國ヨリ負テ依リ共同審判スヘシ
將來同地方ノ司法制度完全ニ改良セ
ラルルトキハ日本國臣民ニ関スル一
切ノ民刑訴訟ハ完全ニ支那國法院ノ
審判ニ歸スヘシ

第六條 支那國政府ハ成ルヘク速ニ外
國人ノ居住貿易ノ爲自ラ進ミテ東部
內蒙古ニ於ケル適當ナル諸都市ヲ開
放スヘキコトヲ約ス

第七條 支那國政府ハ從來支那國ト各

外國資本家トノ間ニ締結シタル鐵道
借款契約規定事項ヲ標準ト爲シ速ニ
吉長鐵道ニ関スル諸協約並契約ノ根
本的改訂ヲ行フヘキコトヲ約ス
將來支那國政府ニ於テ鐵道借款事項
ニ関シ外國資本家ニ對シ現在ノ各鐵
道借款契約ニ比シ有利ナル條件ヲ附
與シタルトキハ日本國人希望ニヨリ
更ニ前記吉長鐵道借款契約ノ改訂ヲ
行フヘシ

第八條 滿洲ニ関スル日支現行各條約
本條約ニ別ニ規定スルモノヲ除ク外一切
従前ノ通り實行スヘシ

第九條 本條約ハ調印ノ日ヨリ效力ヲ
生ス

本條約ハ日本國皇帝陛下及支那共和
國大統領閣下ニ於テ批准セラルヘク
其ノ批准書ハ成ルヘク速ニ東京ニ於
テ交換スヘシ

右證據トシテ兩國全權委員ハ日本文及

支那文ヲ以テ作成セラレタル各二通ハ
本條約ニ署名調印ス

大正四年五月二十五日即中華民國四年五月
二十五日北京ニ於テ之ヲ作ル

日本帝國特命全權公使樺田四郎勲二等日置益(署名印)
支那共和國中卿一等嘉禾勳章總長陸徵祥(署名印)

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ノル
日本國皇帝(御名)此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣
示ス

朕大正四年五月二十五日北京ニ於テ帝
國全權委員カ支那國全權委員ト共ニ署
名調印シタル南滿洲及東部内蒙古ニ関
スル條約ヲ閱覽點檢シ之ヲ嘉納批准ス
神武天皇即位紀元二千五百七十五年大
正四年 月 日東京宮城ニ於テ親ヲ名

ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名 國璽

外務大臣男爵加藤高明

